

令和4年度 3ポリシー調査（就職先・卒業生・在学生）結果について

地域共生学科 食物栄養コース ・ 食物栄養士コース	3ポリシー在学生評価				3ポリシー外部評価（事業所）				卒業生による短大での学びの評価				
	実施日		2月27日		実施日		3月8日		実施日		2月26日		
	学生の学年・人数		2年2名		事業所名		春日幼児園		卒業年度、就職先		令和2(2020)年度 食物栄養士コース卒 日本国民食株式会社 (勤務先：久留米市中央学校給食共同調理場)		
DP	DPの理解度	5	内容についてはよくわかるし、卒業まで授業等を通して身につけることができる内容となっている。中でもコミュニケーション能力や課題解決能力、主体的に学ぶ力などは2年次の実習や地域活動を通して身につけることができたと感じている。特に役に立ったと感じている授業は給食経営管理実習である。	DP	4			役に立った学修	給食経営管理実習 特に衛生面に関することや包丁の技術が役に立っている				
	到達目標としての適切さ	5						不足していると感じた知識・技能	不足しているわけではないが、給食経営管理実習における集団調理の回数をもっとあればよかったと感じた。特に調理をする回数や機材の使用法などをもっと体験できていればよかったと思う。				
CP	CPの理解度	4	あまり目にしたことが無い。文中にカタカナ言葉のなかに言葉の意味が分かりにくいところがある。カリキュラムの内容自体には満足している。大変だと思ったこともあるが学ぶことができてよかった。	CP	4			学外活動への参加	コロナ禍のため活動ができなかった。				
	評価方法の適切さ	5	評価について、実習ではレポートや成果物を重視した評価にして欲しい。実習の試験についてなぜ必要なのか疑問がある。					役に立った学外活動	学外実習先が現在の職場と同じ学校給食センターであったため、参考になっている。給食を作る際の作業内容や手順、考え方等				
	カリキュラム内容・学修方法・学修支援の妥当性	4						学習習慣の必要性和形成	短大では実習などで課されるレポートや課題を期限までに作成し、提出すること等で学習習慣が大変身に付いたが、職場ではあまり必要ない。				
AP	入学前の意識	5	入学時に面接対策や志望理由書の記載などで目にする機会が多かった。内容としては理解できるが、少しハードルが高いと思う点もある。特に、「食と栄養に関心があり、科学的思考ができる人」や4「多様な人と協同して学ぶことができる人」では、「・・・できる」ことが前提となっているので、入学後に身につけるにはだめなのかと思う。また、5「栄養士として活躍したい人」についてはコースの性格上仕方ないと思うが、入学後に栄養士について知ること多いので、入学前から「活躍したい」と思うのは難しいと感じるところがある。	AP	4			最も役に立ったこと	給食経営管理実習 現在の就業内容のすべてにおいて役に立っている。				
	入学前の目標としての適切さ	4						教育内容に対する希望	自分が学んだ内容を、そのまま継続して欲しい。特に給食経営管理実習で100食作る経験が就職してから役に立っている。また、茶道の授業で礼儀作法を学ぶことができたこともよい経験だったと思っている。				
所感	今回インタビューした学生からは、2年間を通して本コースのカリキュラムを学ぶことで、目標とするディプロマポリシーの段階までたどり着くことができたというコメントを得ることができ、各ポリシーの妥当性を確認することができた。学生からは、一部の文言についてはわかりにくい等のコメントもあったが、概ねポリシーの内容を支持するコメントも得た。一方で具体的な指摘があったアドミッションポリシーについては変更するか検討したい。今回カリキュラムポリシーについての認識が不足していることが示されたため、在学生に対して意識させる取り組みが必要と考える。				所感	これまで2名の卒業生が就職している施設である。卒業生は給食業務を主に担当している。当コースのポリシーが栄養士養成のための全般的な内容であったことから、業務に直結していない部分もあり、判断が難しかったのではないかと推察される。				所感	本卒業生は学校給食センターに就職し、調理業務を中心とした栄養士として勤務している。これまでの卒業生と同様に、本学で役に立った学びとして給食経営管理実習における大量調理の経験が卒業後に大きく役立っているという意見がみられた。給食に関する業務は栄養士業務の要であり、今後も本学から栄養士として活躍できる人材を輩出するためには、給食経営管理実習を中心とした大量調理に関する学びを継続する必要があると考える。		
地域共生学科 製菓コース ・ 食物栄養士コース	実施日		2月7日		実施日		2月25日		実施日		2月1日		
	学生の学年・人数		2年3名		事業所名		ふらんす菓子 パティスリーヒロ		卒業年度、就職先		平成30(2018)年度 ㈱ノバレーゼ（ウエディング） 平成30(2019)年度 ハウステンボス ホテル部ベーカー課		
	DP	DPの理解度	4.3	「アンケート実施の時期は、多くのアンケートに回答するため、ループリックの説明文が長く、しっかりと読む気がしなかった。今回改めて読むと内容は理解できるが、もう少し簡潔にしたほうが良い。」このような意見が出され、目標項目に対する評価を4段階（よくできる・できる・できない等）表記のほうが判断しやすいとの声もあがった。特に「II 確かな専門的知識や技能」の項目で、ベンチマーク⑥一般教養、⑦外国語コミュニケーションの項目に改善が求められた。	DP	5			役に立った学修	ビジネスマナー、製菓実習、フランス語、食品衛生学	製菓理論、製菓実習、PCスキル（word,excel）、原価計算		
到達目標としての適切さ		5		不足していると感じた知識・技能					・ビジネスマナー（基本的な挨拶、コミュニケーションの取り方など） ・PCスキル（メールの返信形式、レシピ作成、書類作成の約束事）	原価計算、製パン実技（餡ペラの使い方、包餡、両手使いなど）			
CP	CPの理解度	4	・基礎科目の分野では、「大学教育入門」、「社会人基礎入門」は留学生（台湾籍）にとって難しい内容であった。また「地域と職業」では他分野の業務を知ることが出来たが、製菓コースに関連する分野を学ぶ機会が少なく感じたという意見が寄せられた。 ・カリキュラムの配置や評価方法に関しては、問題がないように思える。今のままで満足している。	CP	5			学外活動への参加	積極的に参加した。	積極的に参加した。			
	評価方法の適切さ	5						題材が多いのか、消化不良感があると思います。（もちろん完璧にこなしている学生もおりますが）	役に立った学外活動	・松浦のおさんプロジェクト（商品開発）：地域の特産品を使って製品を制作することにより、素材の特徴を考慮して商品を販売することが出来た。 ・ボランティア部：献血活動を通じて他校との交流ができ、刺激を受けることが出来た。 学外の人のたくさんの交流を通し、色々な考え方に触れた事が役立っている	学内販売や学園祭などでの大量製造（全体の工程を知ることができる）：製パンの大量製造の際には仕込みを担当していたので、現在の業務に就いた際にスムーズに作業することが出来た。製造工程を考える力がついた。 商品開発、ラッピング		
	カリキュラム内容・学修方法・学修支援の妥当性	4							学習習慣の必要性和形成	職場ではある程度必要で、短大である程度身についた。国家試験対策の集中講座を通して、学び方が身についた。	職場ではある程度必要で、短大である程度身についた。各教科の小テスト、製菓衛生師国家試験対策中に多くの問題を解いたことで身についた。		
AP	入学前の意識	3.7	日本人学生2名は、入試の際にアドミッションポリシーを確認していたが、深く理解していたかという自信がない。ただポリシーとしては適当であると受け止めていた。	AP	5			最も役に立ったこと	ビジネスマナー：仕事を行う上で、先輩やお客様に対するビジネスマナーは大切である。 製菓実習：製造で仕込みをする際に、最低限の知識は必要になる。製菓実習を通して製菓理論の知識を身につけることが大切。	製菓実習（製パン実習）：製菓実習（製パン実習）で機械操作を行っていたため、職場でミキシングの流れを理解するのが容易く、スムーズに行えた。 商品開発			
	入学前の目標としての適切さ	5							教育内容に対する希望	・製菓理論を実習と結び付けて、より深く勉強したほうが良い。例えば、その材料がどのような動きをしているかなど。 ・原価計算も大切、食物アレルギーやビーガンスイーツ、ハラールなど食べ物に対する制限について知ることが大切。 ・求人票の見方	製パン実習の内容が偏っていたように感じる。もう少し幅広く、色々なパンの製造をしてみたかった。 洋菓子同様、パンの創作をしたかった。		
所感	今回参加してくれた学生は、この2年間多くの行事に積極的に参加し、成績も優秀な学生である。学生たちは入学時に思い描いた短大生活を過ごせたかが評価の中心であった。昨年同様、養成側（教員）の目標を知り、意識する機会が少ないことが問題だと反省している。個々の授業での目標は理解できているが、学修成果記録ノートへの記録がなくなり、コースのポリシーを意識する機会が減少していると思われる。レベル評価の表現に関しては、シンプルで理解しやすい表現ができないか、早急に検討が必要だと実感した。なお、特に製菓実習の授業内容に対して要望が多く寄せられたため、この内容は次年度に反映することとした。				所感	回答者は、製菓実習担当の非常勤講師でもあり、日常の学生の様子も良く理解している。コース内でも（今回の評価で在学生からも）カリキュラムポリシーの項目が多いことが検討事項だと受け止めているため、次年度時間をかけて項目の精査していくことにする。				所感	在学中は、クラス内でも後方に控えている印象の学生であったが、勤務先では少人数で運営するため責任ある行動が求められており、また尊敬できる上司に巡り合っていることから、仕事に対し真摯に向き合っている様子が伺えた。いわゆる製菓製造だけの現場と違い、ウエディングプランに関わることでお客さまへの接客などサービス（ビジネスマナー）分野のスキルを必要としていることから、その分野に関して意見を聞かせてくれた。次年度からのインターンシップに向け、彼女の意見を反映させたいと考える。		在学中よりクラスの中心となって活動を行っていた卒業生である。入学時より一貫して製パン業を志していたため、今回も製パン関連の意見が多く寄せられた。入学時より明確な目標を表明する学生には、学内外の活動で希望に沿った役割を与えることができるが、全ての学生に対し同様の配慮は出来ていないと思う。卒業後の現場では先輩として指導する立場になることも考え、学内外の行事では、1、2年生のチームを組み指導する立場を経験させることも必要だと考える。

令和4年度 3ポリシー調査（就職先・卒業生・在学生）結果について

地域共生学科介護福祉コース・保育学科介護福祉専攻	実施日	2月3日			実施日	3月7日			実施日	2月2日		
	学生の学年・人数	2年3名			事業所名	特定養護老人ホーム 音羽の浜			卒業年度、就職先	令和3年(2021)度卒 デイサービス相談員		
DP	DPの理解度	5	人間力や知識・技術を高め、コミュニケーション能力を向上させて卒業を迎えないといけないと思っている。			DP	5	問題はありません。	役に立った学修	介護過程、 社会の理解		
	到達目標としての適切さ	5							不足していると感じた知識・技能	法律（支援区分の詳細など）、生活支援技術（移乗など）		
CP	CPの理解度	5	福祉文化等の授業内容が難しすぎる。			CP	5	問題はありません。	学外活動への参加	コロナ禍のため活動なし		
	評価方法の適切さ	5							役に立った学外活動	「サロンあたご」におけるレクリエーション（100歳体操）の経験：体操をすることが、在宅生活における支援にどのように役に立つのかを、自分の経験談を交えながら、利用者と会話することができる。		
	カリキュラム内容・学修方法・学修支援の妥当性	5							学習習慣の必要性と形成	職場ではとても必要。短大で大変身に付いた。本を読むようになった。事例研究の作成が非常に役に立った。その他は、認知症に関する本を読み、そのレポートを書くこと等、本を読む良いきっかけになった。		
AP	入学前の意識	2	便覧を見せると入学者の受け入れ方針もあったのだけれど、実際は意識していない人が多いと思う。			AP	5	問題はありません。	最も役に立ったこと	授業が役に立った。学ぶことが楽しいと感じた。わからないことを調べるようになった。自分の知識不足の領域を、学び続ける習慣が身についたとおもう。いまの仕事においては、学び続ける姿勢が、利用者との良好な関係をつくることで大切だと思う。		
	入学前の目標としての適切さ	5							教育内容に対する希望	・実習において、移乗・移動などの実技の充実 ・介護福祉士を取得したあとのキャリアについての教授、入所施設だけでない、将来の可能性を教授頂きたかった。		
所感	便覧には目を通すが3つのポリシーについては、目を通してはいる学生は少ないのではないかと。また、教室の後ろにディプロマポリシーは掲示してあるものの、なかなか内容を理解して、じっくり読むという学生はいないと思う。今回は、便覧を開き、3ポリの説明をしながらアンケートに答えてもらった。説明後は、内容を理解してアンケートに答えていた。			所感	新入社員で全く介護が初めての方もおられます。一からの指導が必要になりますが、学校にて実習された生徒さんは間違いなく現場に必要な人材と確信します。多くの介護士さんを育てて卒業までには簡単な事ではないですが、現場は実習にも協力し、生徒さんの成長を祈っています。(事業所より)			所感	卒業後、介護福祉士の資格を活かし、デイサービスの相談員を行っている。現在、社会福祉士取得も検討し、向上していこうという思いがある。聴き取りの中で、「学び続ける習慣のきっかけが、事例研究を通して身についた」という内容が、とてもうれしく感じた			
地域共生国際コミュニケーション学科	実施日	1月26日			実施日	2月28日			実施日	2月24日		
	学生の学年・人数	2年3名			事業所名	長崎三菱自動車販売株式会社			卒業年度、就職先	令和3(2022)年度卒 長崎三菱自動車販売株式会社日野店		
DP	DPの理解度	4	①目標としての認識が足りなかったと思う。その理由は、ディプロマポリシーに対する説明や案内があまり多くなかったからだと思う。 ②少し表現は堅い印象はあるが、内容としては納得できる。			DP	5	特になし。	役に立った学修	ビジネスマナーの授業（梶谷先生）で学んだこと。特に、電話対応は、役に立った。		
	到達目標としての適切さ	3.7							不足していると感じた知識・技能	時々、アメリカ軍基地の外国人が来られるので、英語を真剣に学んでおけばよかった。また、電話対応ももう少し真剣に学んでおけばよかった。		
CP	CPの理解度	4.7	①AwesomeSaseboは、授業のゴールが少し分かりにくかったため、（数値化しにくいところはあるが）より具体的に評価基準を提示したらさらに良い。 ②卒業の際にディプロマサブリメントとして提示されるのなら、キャリアデザイン系の科目はいつでも必修科目にしても良いと思う。 ③（茶道）実技試験は茶道の先生に学ぶ班とそうでない班の格差が大きく、採点基準も曖昧だと思う。また、茶道大会に参加する人の中で、代表学生を中心に一部の人のみ結構負担が多く、代表学生の選抜基準も曖昧であるため、納得できる基準の提示と、代表学生に対して特典（出席のみなし、実技試験の向上点など）が必要と思う。			CP	5	・情報処理の授業の充実。自動車会社では、お客様対応でデータを提示したり、チラシを作ったりとタブレットやパソコンを常時使用する。また、整備部門でもデータを使用するので、デジタル操作をしっかりと学んでもらえるといい。 ・接客時に必要となるコミュニケーションスキルを高める授業もさらに重要になると思われる。	学外活動への参加	積極的に参加した。		
	評価方法の適切さ	5							役に立った学外活動	長期学外学修（3ヶ月間のインターンシップ）。接客業の体験が、かなり役に立っている。特に、インターンシップ中に上司の指導で「言葉ノート」を作成し、言葉使いのトレーニングを受けたことが今の仕事に役に立っている。AwesomeSasebo活動でおこなった、動画作成、チラシ作りなどが今の仕事に役に立っている。		
	カリキュラム内容・学修方法・学修支援の妥当性	5							学習習慣の必要性と形成	職場でとても必要で、期限内の宿題やプロジェクトの提出等を通して短大である程度身についた。		
AP	入学前の意識	5	①国際コミュニケーションコースらしさがよく出ていると思う ②受験生（高校生）が読んでも分かりやすい表現になっていると思う。			AP	5	特になし。	最も役に立ったこと	語学の授業、ビジネスマナー、インターンシップの授業：接客がメインの仕事なので、お客さんとコミュニケーションをとる際に大変役にたっている。		
	入学前の目標としての適切さ	5							教育内容に対する希望	ぜひ、語学力を含めたコミュニケーションの力を養成して欲しい。		
所感	今回の点検を通じて、調査対象であった3名も学生だけでなく、在学生に対して3ポリシーについてより徹底的に案内する必要性を感じた。また、学生たちは3ポリシーに沿った学びを得られる中、より具体的な評価基準を求めていることも改めて確認できた。次年度以降、学生に対する周知を徹底しながら、質の良い教育が行えるよう、努力していきたい。			所感	今回、自動車の営業職についている卒業生の職場を訪問した。短大時代に活発で明るく、人と話すのが好きな学生であったため、営業職に適していると感じた。職場の雰囲気もよく、上司を含めて周りの社員とも問題なく仕事をしてきた。これから、様々な研修に参加し、また関連の資格も取りつつ、キャリアを積み上げていっている。3ポリシーに関しては、特に問題はないとのコメントをもらった。今後、ビジネススキルに結びつく関連科目の内容の深化を考えていきたい。			所感	営業の仕事が本人に適しているようで、楽しく仕事に取り組んでいた。「仕事を頑張ってくれていて、入社して1年だが、これからの成長を期待している」との上司のコメントをもらった。現在は、仕事で必要とされる生命保険等の資格取得のための勉強も仕事と並行して行っているとのこと。国際コミュニケーションコースで学んだ語学やビジネススキルを上手に使い、仕事をしているという印象だった。ただ、「今になって短大時代にもっと真剣に学んでいれば良かったと思う時がある」との後悔のコメントもあった。我々としては、このような卒業生の声を上手に、在学生に伝え、短大での学習に真剣に取り組むように指導していきたい。これから日々勉強しながら、プロのセールスパーソンとして、活躍していきたい。			

令和4年度 3ポリシー調査（就職先・卒業生・在学生）結果について

	実施日	3月24日/4月4日			実施日	3月27日			実施日	3月30日		
	学生の学年・人数	1年2名			事業所名	学校法人谷川学園 大野幼稚園			卒業年度、就職先	平成27(2015)年度卒 学校法人谷川学園 認定こども園 大野幼稚園		
保育学科・保育学科保育専攻	DP	DPの理解度	4	特になし。	DP	5	学位プログラムの中の教育目的に添って資質・能力の各大項目は、Iの心豊かな人間力を土台としてII～Vまでが構築されていて、このDPを習得すれば卒業認定・学位を取得されていかれます。保育の現場では、子どもと向き合う姿勢の中にも人間性が求められ重要になりますので、貴学での学びに期待するところです。	役に立った学修	ピアノ、造形、障害児保育、保育者論、乳児保育、保育教材研究、保育の心理学、社会的養護、言葉、絵本の実演、カリキュラムの立て方			
		到達目標としての適切さ	4.5					不足していると感じた知識・技能	保護者対応、カリキュラムの立て方と実演、まとめの書き方、英語(連絡事項の伝え方、コミュニケーションの取り方)			
	CP	CPの理解度	4	特になし。	CP	5	多面的にカリキュラムが組まれていると思います。教育課程実施の方法としましては、ICT・ウェブの活用も増えてくると感じています。評価がいかされるPDCAサイクルであることが大切だと思います。	学外活動への参加	積極的に参加した。			
		評価方法の適切さ	4.5					役に立った学外活動	特別支援学校でのレクリエーションのボランティア： 肢体不自由のお子さんの兄弟がいっしょの方のお話やその子のお話がイメージしやすく、直接お会いすることはなかったのですが、保護者の方とコミュニケーションがとりやすかったです。 させばわんぱくひろばでの経験：コロナ禍まで行っていたさせばわんぱくひろばでは、多数の子どもたちが初めて出会う不特定多数の親子との関わり(一日入園など)で役立てることができた。			
		カリキュラム内容・学修方法・学修支援の妥当性	4.5					学習習慣の必要性と形成	職場でとても必要。短大である程度身についた。土日は図書館で子どもたちに関する本を見て知識として加えていました。高校から保育に携わる仕事がしたいと思っていたので、特に実技に関することは身につけたい一心で頑張りました。ボランティアを通して”あの時どうしたら良かったんだろう”と思ったことが特に反省と学びの習慣につながっていきました。少々人見知りだった私の意識が変わったのもボランティアや実習だったように思います。			
AP	入学前の意識	4.5	特になし。	AP	5	将来の職業選択に保育者希望が減りつつあります。求める学生像の中に引きつける魅力をどう表現するか難しい所だと思いますが、東北唯一の保育学科が佐世保の保育には欠かせませんのでよろしくお願い致します。	最も役に立ったこと	ゼミ活動、保育実習、ピアノ、オペレッタ：ゼミ活動では保護者と子どものとかかわりを学んだこともあり、保育者が子どもだけではないんだという意識を持つことができました。子どもたちの前で何かをすること、保護者の方とのお話の仕方を緊張しながら学びました。ピアノは短大で弾いた曲を今でもよく歌っています。音楽と動きのついでで行った身体表現とオペレッタはおゆうぎ会の演出、大道具、小道具づくりに大いに役立ちました。大人になってステージに立つことはなかなかないので、人前で何かをという時にも対応する力が身に付きました。				
	入学前の目標としての適切さ	n.s.					教育内容に対する希望	保護者対応についてはもう少し具体的に学びたいというところがありました。現場に出てすぐにあいさつ、何かあった時(トラブルなど)の報告の仕方は見て吸収することが多かったのも、それぞれに園のやり方はあるかと思いますが、学生の時に少し学びたかったです。ノートの書き方、良いことの報告、けがの報告の仕方など。 カリキュラムの立て方、まとめ方についてももう少し実演したかったです。こちら園によって形式は様々ですが、計画の立て方～まとめ方、反省の書き方を表現を知るといっても含めて学びを深められるとより現場で役に立ったかと思っています。				
所感	・ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーについて、入学式後のオリエンテーション時に説明の機会を設けているが、説明の仕方や方法についても工夫を要すると感じた。 ・アドミッションポリシーについては、入学時点である程度意識化されている面も見られた。			所感	保育者に必要な資質（人間性）の育成に加え、ICT等のリテラシーを向上させる教育課程の重要性を感じた。また、今後は「保育の魅力」を如何に発信していくのか等、養成校としての存在意義を意識しながらより一層地域貢献に取り組んでいきたい。			所感	在学時より学習に対する意識が高かった卒業生が、卒後も本学の学習成果を活かして実践現場で活躍している様子が伺えた。在学時の実習やボランティア活動（地域活動）での実践経験を活かして、その後の学びの習慣化に繋がっている面も見られた。			
専攻科保育専攻	実施日	4月26日			実施日	3月13日			実施日	3月10日		
	学生の学年・人数	2年2名			事業所名	社会福祉法人ひなたの会 幼保連携型認定こども園吉井にじろこども園			卒業年度、就職先	令和2(2020)年度卒 社会福祉法人栄照福祉会 ひなたの会 幼保連携型認定こども園吉井にじろこども園		
	DP	DPの理解度	4.5	・客観的に自己評価しづらい箇所がある ・自信がない場合や判断に迷う場合は、普通以下に評価を付けている	DP	4	自己理解を深める機会が在学中にあると感じます。初めての機会が就職してからという実習生や卒業生に多く出会います。	役に立った学修	子ども一人ひとりを見ること(視点など) 実践後の振り返りや改善 保護者の方との関わり方(個人面談や相談をされたときなど)			
		到達目標としての適切さ	5					不足していると感じた知識・技能	絵画指導の仕方や運動遊びのルールなどを教える時の伝え方が難しく、担任を持ってから実践しながらできるようになったが今でも難し課は感じている。			
	CP	CPの理解度	5	インターンシップの評価の割合が思っていたより大きいと感じた。 ・科目評価のフィードバックが点数のみで、細かい内容には到らず不完全であると感じる。これが十分だとさらに次の学びにつながっていくのではないかと考える。	CP	4	アクティブラーニング型授業により、書く、離すなどのアウトプットの力が身に付くことを期待しています。	学外活動への参加	その他			
		評価方法の適切さ	5					役に立った学外活動	海きららあまもばでのイベント その場にいる子どもたちの雰囲気などに合わせて、臨機応変に動く話す。現場でも大事になる1つだと思う。			
		カリキュラム内容・学修方法・学修支援の妥当性	5					学習習慣の必要性と形成	とても必要で、ある程度身に付いた。 インターンシップの実践し、学校でその経験をもとに学びが深められ、また実践と学びのつながりがあるため自然と子どもや保育について考え、先輩に聞いたりして学びにしている。インターンシップの振り返りや論文(ゼミ)は特に身に付きかけた1つだったともう。			
AP	入学前の意識	5	特になし。	AP	5		学習習慣の必要性と形成	授業全てが保育の実践とつながる部分がほとんどなので、今後にも役立つと思う。 学びにしたいという気持ちが自然と出てくるところ(経験から疑問に思ったことなどをそのままにせず、自分なりに解決したり、調べたり、人に聞いて学びにすること)。				
	入学前の目標としての適切さ	5					教育内容に対する希望	実際に現場経験のある先生から話を聞く機会。絵画や運動、楽器の扱い方の子どもたちへの伝え方(教え方や説明の仕方など、指導になりすぎず、ポイントをおさえて子どもたちがのびのびと取り組めるように)				
所感	1.ディプロマポリシーの読解は十分であるが、自己評価に具体性を引き出す工夫が必要である。 2.科目評価のフィードバックをより丁寧に行う必要がある。 3.入試対策として十分に理解されていた。			所感	・自己理解を深める機会とは、社会(保育現場)における汎用性を指して言われていると思うが、特に保育学科実習生ならびに卒業生に対するコメントとして受け止めた。現場体験を多く有した教育課程が望まれる。 ・アクティブラーニングの必要性が保育現場からも訴えられている。			所感	保育実践力の育成が専攻科の学修の中で最も価値が高かったと感じている。その一方で造形、音楽、運動の授業の中で子どもへ3の支援方法の教授に具体性が少なく、不満を感じたという指摘がある。科目担当教員の一層の研鑽が求められているところである。			